

エベコ火山東部から放出される火山性物質のフラックス

Flux of volcanic materials emitted from the eastern part of Ebeko volcano, Paramushir, northern Kuril

高橋 正明 [1]; 風早 康平 [2]

Masaaki Takahashi[1]; Kohei Kazahaya[2]

[1] 産総研・地質調査総合センター; [2] 産総研地調

[1] GSJ, AIST; [2] Geol. Surv. Japan, AIST

エベコ火山は、千島列島最北部パラムシル島の北部に位置する、標高 1156m の火山である。エベコ火山の東部から放出される火山性物質のフラックスを調査するため、火山麓東部を流下する河川、坑井（地熱井、水道水源井）およびエベコ山山頂部の 28ヶ所において試料採取を行い、その化学組成および水の水素・酸素同位体組成の分析を行った（パラムシル島の東に位置するシュムシュ島においても 5ヶ所で試料採取を行った）。河川については流量の観測を行った。

その結果、硫酸イオン濃度と塩化物イオン濃度の比は、Ptichjya 川以南の川とシュムシュ島の川では 1 以下であるが、Ptichjya 川より北の川では 1 以上と、陰イオン組成が変化していることがわかった。河川の流量を考慮すると、塩化物イオンは Ptichjya 川から 70 % 程度が放出されているが、硫酸イオンは Ptichjya 川が 40 % 強、それより北の川全部で 50 % 程度と計算された。

さらに詳細な解析を行うためには、エベコ火山の周辺に分布している噴気、温泉の流量や化学組成等の観測を行う必要がある。